

週間火山概況 (平成 26 年 3 月 21 日 ~ 3 月 27 日)

【火山現象に関する警報等の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項（警戒が必要な事項）に変更はありません。

表 1 火山現象に関する警報等の発表履歴 (平成 26 年 3 月 21 日 ~ 3 月 27 日)

発表日時	火山名	特別警報・ 警報・予報	概要
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 3 月 27 日現在の火山現象に関する警報等の発表状況

特別警報・ 警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3 (入山規制)	桜島
	レベル 2 (火口周辺規制)	三宅島、霧島山(新燃岳)、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	西之島、硫黄島
噴火警報(周辺海域)	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル 1 (平常)	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、新潟焼山、焼岳、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山(御鉢)、薩摩硫黄島、口永良部島
	平常	上記以外の活火山

印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中。



図 1 火山現象に関する警報を発表中の火山 (3 月 27 日現在)

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

三宅島^{みやけじま} [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

三宅島では、22日11時頃から山頂付近の浅い所を震源とする火山性地震が増加し、14時20分頃には、マグニチュード2.4の地震が発生し、三宅村に着て震度2、三宅村役場臨時庁舎で震度1を観測しました。その後地震回数は減少しました。

地震の増加に対応して、傾斜計¹⁾でわずかな山体膨張を示す地殻変動が観測されましたが、地震回数の減少に伴い次第に収まりました。

24日に実施した現地調査では、前回（3月11日）と比較して、火口内の地形及び地熱域に大きな変化は認められませんでした。

今期間、噴煙の高さは、火口縁上100～200mで経過しました。

三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に警戒してください。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では、火山ガスに警戒してください。

西之島^{にしのみま} [火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報]

24日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、従来から確認されている中央部火口（図2の ）と北側火口（図2の ）に加えて、さらに北側に新たな火口（図2の ）が確認されました。中央部火口からは、薄い褐色の噴煙を連続的に放出し、数分に1回の頻度で溶岩片を放出していました。北側火口からは、ほぼ連続的に白色の噴煙を高さ150mまで噴出していました。さらに北側の新たな火口からは、30分に1回程度灰色の噴煙を噴出していました。火口内と中央火口丘東側斜面の数カ所（図2の ）に赤熱部分が認められました。溶岩流の拡張により新たな陸地は、前回（2月28日）の観測と比較して、東方向で約125m、南、西方向で約50m拡大していることが認められました。新たな陸地の海岸線付近に幅約300～500mの薄い褐色の変色水域を確認しました。

西之島では、今後も噴火が続くおそれがありますので、西之島付近では噴火に警戒してください。また、周辺海域では浮遊物に注意してください。



図2 西之島 火口付近の状況（24日14時07分撮影）

硫黄島^{いおうとう} [火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報]

今期間、火山性地震はやや多い状態で経過し、火山性微動は少ない状態で経過しました。

22日22時27分と23時23分頃に振幅の大きい火山性地震が発生しました。硫黄島の海上自衛隊からの連絡によると23時23分頃の地震で揺れが感じられたとのこと。

国土地理院の観測によると、地殻変動は2014年1月頃から停滞気味でしたが、2月下旬頃から隆起の傾向がみられます。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生している地点（旧噴火口等）及びその周辺では噴火に警戒してください。

ふくとくおか の ば 福徳岡ノ場 [噴火警報(周辺海域警戒)及び火山現象に関する海上警報]

今期間、海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による上空からの観測は行われませんでした。これまでのこれら機関の観測によると、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に警戒してください。

まりしまやま しんやえだけ 霧島山(新燃岳) [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

新燃岳では今期間、噴火は発生しませんでした。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されませんでした。

傾斜計¹⁾では、火山活動に伴う特段の変化は認められませんでした。

GNSS²⁾観測によると、新燃岳の北西地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す伸びの変化は、2011年12月以降鈍化・停滞していましたが、2013年12月頃から伸びの傾向が見られます。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石³⁾(火山れき⁴⁾)が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には、泥石流や土石流に注意してください。

さくらしま 桜島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)]

桜島では、活発な噴火活動が続きました。

昭和火口では、爆発的噴火が29回発生し、大きな噴石³⁾が4合目(昭和火口より800~1,300m)まで達しました。同火口では、夜間に高感度カメラ⁵⁾で明瞭に見える火映を時々観測しました。

南岳山頂火口では、噴火は発生しませんでした。

24日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり1,900トン(前回10日、1,900トン)とやや多い状況でした。

GNSS²⁾連続観測では桜島島内の基線で、2013年2月頃からわずかな伸びの傾向がみられましたが、同年7月頃から停滞またはわずかな縮みの傾向がみられます。国土地理院の地殻変動観測によると、鹿児島(錦江)湾を挟む一部の基線では、長期的な伸びの傾向が続いていましたが、2013年6月頃から停滞気味です。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾(火山れき⁴⁾)が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

すわ の せしま 諏訪之瀬島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

諏訪之瀬島の御岳火口では今期間、噴火は発生しませんでした。長期にわたり噴火を繰り返していません。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態で経過しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

くさつしらねさん 草津白根山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

3月6日夜から7日にかけて(期間外)、湯釜から湯釜の南付近を震源とする振幅の小さな火山性地震が一時的に増加しました。その後、地震回数は減少傾向にあります。今期間も地震活動は継続しています。また、火山性微動は観測されていません。

山頂火口から概ね500mの範囲では、火山灰の噴出等に警戒してください。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺の窪地や谷などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

- 1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。
- 2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。
- 3) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 4) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。
- 5) 九州地方整備局大隅河川国道事務所が黒神河原上流に設置したカメラ等によります。

注) 本資料は速報的な内容を含みます。データについては精査により、後日修正することがあります。詳細については、毎月発表の火山活動解説資料を参照してください。

http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

【参考】 噴火警報・予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル対象火山		噴火警戒レベル対象外の火山
噴火警戒レベル(キーワード)	警報・予報	警戒事項等(キーワード)
レベル5(避難)	噴火警報	居住地域嚴重警戒
レベル4(避難準備)	火口周辺警報	入山危険
レベル3(入山規制)	噴火予報	火口周辺危険
レベル2(火口周辺規制)		平常
レベル1(平常)		

海底火山については、噴火警報(周辺海域)(キーワード:周辺海域警戒)と噴火予報(キーワード:平常)で発表します。

印のついた噴火警報は、特別警報に位置づけられています。